

NEWSLETTER まわしん



那覇市民児連

第5号 2023年12月

発行:真和志第三民生委員児童委員協議会広報部

E-mail: mawashi33@outlook.jp

日帰り研修報告



11月8日(水)

- ・今年度1回目の日帰り研修を沖縄少年院と沖縄女子学園で実施しました。当日は庶務課長補佐松本氏を講師に、補助として鈴木氏に対応して頂きました。入院から出院までの教育の流れなどについて受講後、施設内の見学を行いました。
- ・矯正教育の各課程では、就学支援のほかに資格取得に向けたコースも設定され(希望があれば通信教育も受講可能)、円滑な社会復帰に向けた支援体制が整えられていました。
- ・広い敷地(沖縄セルラー球場の1.5倍)内に赤瓦の施設が配置され、女子学園内の中庭には、実習で育成された花壇もあり、穏やかな空気が流れていましたが、外周を囲む高い壁は、改めて矯正施設内であることに気づかされました。
- ・今回の研修において、松本氏の講話にあった、「子どもの可塑性」と「矯正施設と地域の連携」について、新たに生まれ変わった子供たちを、地域において、普通に、そしてほどよい距離感で支えていくにはどうすればいいのか、考える機会となりました(文責 金城)。

2023年活動報告



識名小学校入学式 (4/10)



繁多川自治会への委員募集ポスター掲示協力依頼 (5/4)



知念和子氏 厚労大臣表彰(5/17)



第42回那覇市民生委員児童委員大会(パレット市民劇場, 11/22) 神村盛里氏永年勤続表彰



真和志地区民生委員児童委員合同研修会(災害図上訓練(DIG))(県立博物館講座室, 8/8)

2023年 NEWS LETTERを振り返って

真和志第3民児協の活動状況発信を目的として、8月から毎月1回配信しました。記事の作成において、IZCOさん、山城博子さん、知念和子さん、那覇市身体障害者福祉協会宮城事務局長のご協力を頂きました。また、障がい者週間の取組については、那覇市障がい福祉課の校閲を頂きました。ここに記して感謝申し上げます。皆様にとって2023年とはどのような年だったでしょうか? 2024年が皆様にとって良き年となるよう祈念します。

真和志第3民児協会長 金城邦夫

毎年12月3日から9日は「障害者週間」です。

2004年(平成16年)6月の障害者基本法の改正により、従来の「障害者の日」(12月9日)に代わるものとして設定されました。「障害者週間」は、全ての国民が、相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生社会」の理念の普及を図り、障害及び障害者に対する国民の関心と理解を一層深めることを目的として、我が国全体で実施されるものです。

那覇市をはじめ県内各市町村では、様々な催し物が開催される予定です。この機会に、障がいを持つ方々への関心を高めてもらえることを期待します。

障害者週間ポスター:テーマ「障害の有無にかかわらず誰もが能力を発揮して安全に安心して生活できる社会の実現」に、系満市立高嶺中学校3年の高橋さんが作成した「誰もが主役の明るい世界」が優秀賞に選出されています。

内閣府HP <https://www8.cao.go.jp/shougai/kou-kei/nyushou/r05nyushou.html>

那覇市関連行事

○令和5年度(第41回)那覇市障がい者運動会(11/26、日曜日、開南小学校グランド)

<競技内容> 1.パン食い競争 2.混合リレー 3.風船割り 4.フライングディスク 5.車椅子スラローム
6.音感競争 7.800mリレー 8.ボール運び競争 9.玉入れ

○那覇市障がい者美術展

【作品応募期間】12月1日(金)から1月31日(水)まで

【問合せ先】社団法人 那覇市身体障害者福祉協会 電話:098-885-9444 FAX:098-885-0420

那覇市基本理念 「障がいのある人もない人も、共に輝き暮しやすいまち、なはをめざして」 “うまんちゅとともに・うまんちゅのために・まじゅんちばらな”

那覇市では、障がいを持つ方やその家族の皆様に対し様々な支援を行っています。

詳細については、利用できる福祉制度やサービスなどをまとめた「障がい福祉のしおり」または、那覇市福祉部障がい福祉課にお問い合わせください。

○障がい福祉のしおり(那覇市HP)

<https://www.city.naha.okinawa.jp/fukusi/syougai/syougai/fukusinosiori.html>

○障害者手帳と自立支援医療 ○障がい福祉サービス ○補装具・日常生活用具等の給付

○医療費、その他助成 ○手当 ○日常生活における支援 ○相談・問い合わせ

○割引・優遇制度 ○イベント・催事・障がい者マーク

※障害年金については、ハイサイ市民課年金グループ(098-861-6901)までお問い合わせください。

福祉部障がい福祉課

〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号 市庁舎3階 36番窓口

電話:098-862-3275 e-mail:H-HUKU001@city.naha.lg.jp

News Letter 第3号で紹介した、唐針(カラハイ、那覇市、1993)に掲載されている寄稿文の中から、障がい者週間に関連する記事を紹介いたします(原文のまま)。是非、心に留めおき下さい。

注:唐針は個人所蔵のため、閲覧等希望する場合は真和志第3 金城宛(mawashi33@outlook.jp)お問合せ下さい。

国連障害者十年を振り返って

崎山 綾子

私は、先天性脳性麻痺による視力障害、両手指障害、肢体障害の三重の障害を持つ者です。

子供の頃、わらをもつかむ思いで病院を数箇所通い続けましたが、医者の診断は「見込みなし」でした。

絶望のどん底に落ちたのですが、気を取りなおし歩行訓練を朝の五時から、人の目を気にしながら階段の上り降りを毎日続行、お陰で歩ける様になり希望も少し持てました。

その時、沖縄視覚障害者福祉協会で名古屋の杉田眼科の取り次ぎをしておりました所から、紹介状を携えて名古屋へ治ると期待して船と汽車を乗り継いで、心はルンルン気分です手術を受けました。

結果は最悪、「一生見込みなし」先生の言葉をウソであってほしいと思いい、ドイツ製で目の訓練をする機械があるとことをきき、訓練を四十日間続けた結果、少しずつ良い方に、後一年は続けたが経済がどうにもなりません。

やむなく沖縄に帰らなければならず、貧しさをいやというほど知らされました。生活保護も受けられず大変なものでした。

国際障害者年もあり、今は昔くらべ楽になりましたが、一般社会の理解と関心を得られるようになり、ありがたい事だと思えます。

障害者は終わっても我々障害者は一生生きていく以上、永久に障害者年です。障害に負けない様希望を捨てず、あきらめず毎日の練習にガンバリます。

唐針(那覇市 1993)より転載